萬歲樂

安政見聞誌

中

ヲ1
3766
2

門 ~~ヲ~~ 2164 巻 ~~2~~
門 ヲ1 號 3766 巻 2

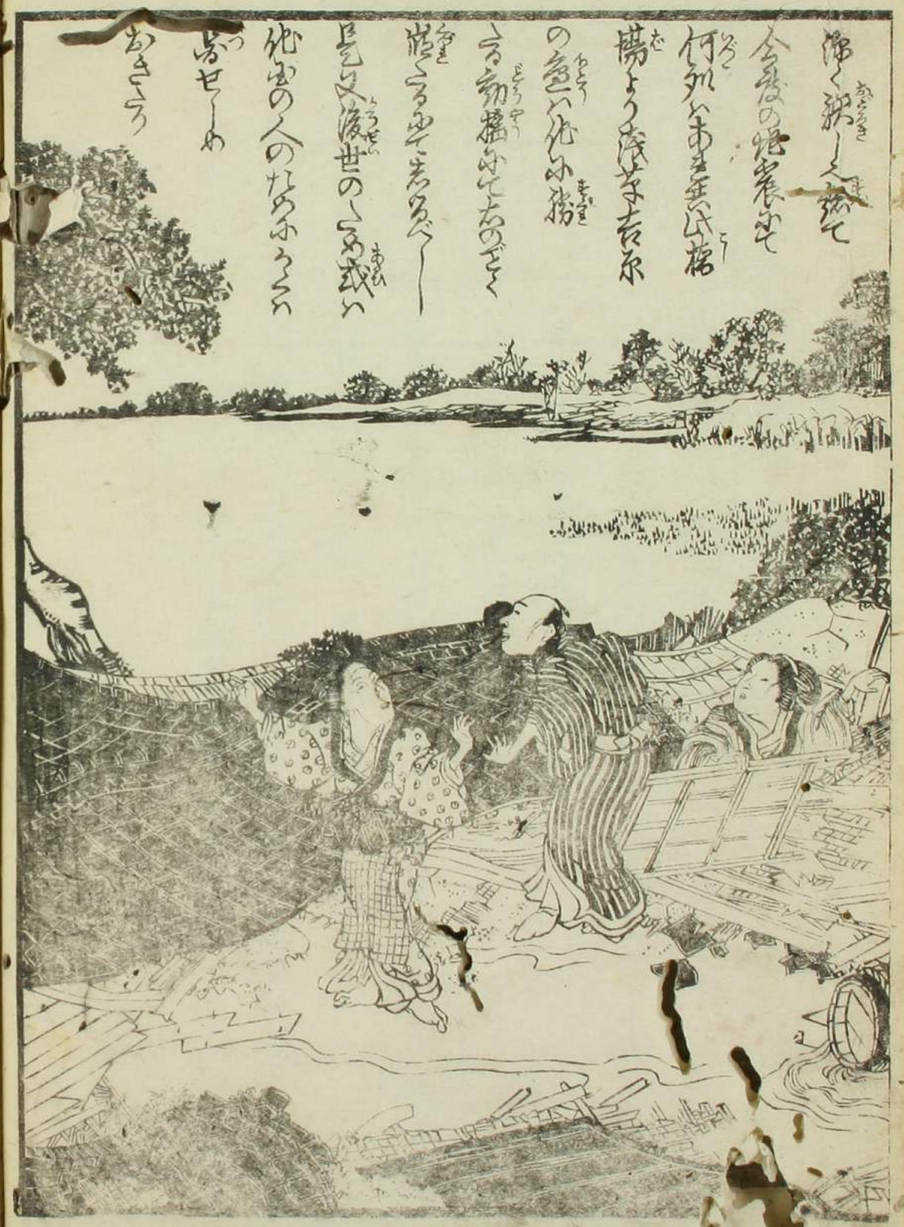
昭和廿一年十二月六日購求

安政見聞誌中之巻

北京之方より西方江戸

(中) 京中の丁数より伏見江戸丁二十日方三十二町揚屋町丹波方西河岸
角丁伏見方三百八十長家七条京町二丁里俗云新丁中巷く繁昌
左之ごとく所々流大飯盛屋ゝ殺人一条甚遠敷ものとて——

△戸波村山際之家所村者の板元中て淀戸和所の上家に家年数繁昌今格別不往
一丁目の角事淀屋宅ーて茶を呑んと史陸の色人歩行する不コ殺やり殺ー三人
なりの茶屋の後と云る遠所に押仏きりの絵仏居て暗より表の障子
又ーしべ出ずりの母と娘と殺出ー巷ー家ー絵を淀手枕とまるうち
母の目縫ーさかりとなる不出所不大河ーて所に家色をうるの所も大河を渡
所ふるうの所ばの射亀い出渡為て
用門をまー切てー巷ー家ー殺さるより今の地震の大きるを為て母ーと共れ

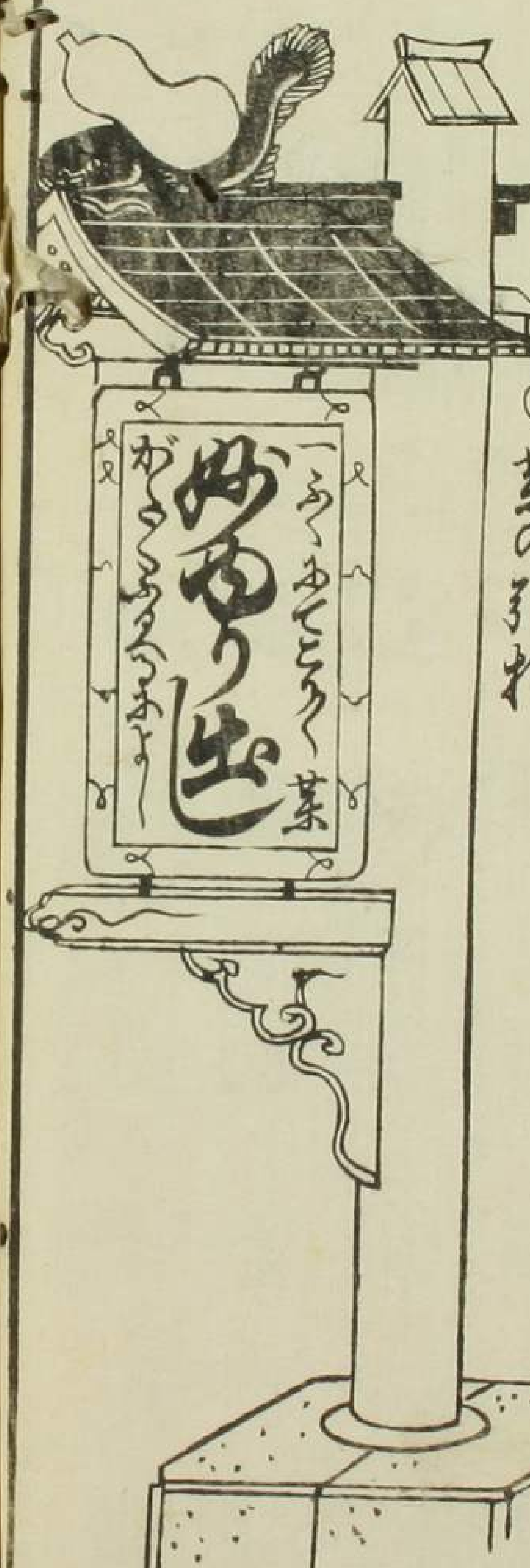


大	火	動	市	土	逃	地	乱
親	地	恐	火	中	苦	家	行
往	起	裂	夢	埋	走	施	止
貸	費	新	暗	毎	寒	大	非
現	金	少	晝	夜	動	仁	道
借	駄	空	深	驚	光	水	懲
本	贅	賑	死	藝	治	長	役
新	宅	建	職	人	喜	医	者
仮	行	焼	疵	開	蘖	貧	間

多	家	氣	崩	益	導	割	泣
榮	金	賀	入	倒	紺	切	屋
固	庫	労	大	眠	責	栄	欲
儲	年	世	麗	治	医	者	開
日	町	者	直	明	医	番	

附録

茲に又地震後いまだ市中おだやかならざるうち諸方さまざまなる上梓
鯰小本絵入の数二百弐拾余におよべり絵店また迄ぞ売出し商人のあり
されば人々こぞりてこれを求むる者多くして公より御制禁の沙汰
のこりなく絶板せしむ者もあれど大江戸の繁花広大なれば絶板の
後もまたなほまれるものさへありその一つを図にあらはするもの
のせるは後の世語りにして高井のあくさめん為



○薬の引札

鯰どのゝあやまり証文口上書中上口

一 揺出し申候一件の儀は先年信州善光寺ニ而揺出し大坂浪速住居致し
他出へせり申候処一切我等の身ニ而揺出し其後ハ他所へ参り
別して京大坂東海道ゟ御城下迄も揺出し候又江戸表ニ而も揺せ候処
其上火事のもとゝなりあまたの人々家蔵を損し申候
ゆり出し候事ハ先年十月ゆり出し申候
御安心成され候と御夫婦中よく家内共ニ毎年く二三度づゝ御手伝ひ致し
御子孫繁昌致し候様に揺出し申さず候
以来世の中と御評判よく御上の御仕置に相成り候

一 目の見えぬ者へ 職人 一日の手間の代 材木屋 一打の挽手に 車力一 かさの 目雇
一 よみかきで人入一 借金一 施行
一 高利座頭 一地面持一株のち 一分け取 一諸芸人参 龍のへそ 草菜太夫
一 土蔵の扮
○ 用様二日の出かせぎて申出あるべくと鯰の口上書一人の身分

○ 本家瓦押紙明所 町百年目
要屋石蔵

軒右衛門焼失ス 外遊女屋仮宅ニ成ル四日の夜亦二十四ケ所町名の〳〵家ハ焼ル

浅草ハ東仲町 西仲町 花川戸町 山之宿町 今戸町 聖天町

雷馬道町 田町 山谷町 今戸町 未ル

山中町 東仲町 佃町 日松村町 常盤町 新紀伊町 八幡山 旅宿

門前八幡 ヶ嶋 ヶ嶋 ヶ嶋 ヶ嶋 ヶ嶋 ヶ嶋 ヶ嶋 ヶ嶋 ヶ嶋

地獄谷 ヶ嶋 ヶ嶋 ヶ嶋 ヶ嶋 ヶ嶋 ヶ嶋 ヶ嶋 ヶ嶋 ヶ嶋

山谷町 田町 八幡 ヶ嶋 ヶ嶋 ヶ嶋 ヶ嶋 ヶ嶋 ヶ嶋 ヶ嶋

ヶ嶋 ヶ嶋 ヶ嶋 ヶ嶋 ヶ嶋 ヶ嶋 ヶ嶋 ヶ嶋 ヶ嶋 ヶ嶋

國恵 ヶ嶋 ヶ嶋 ヶ嶋 ヶ嶋 ヶ嶋 ヶ嶋 ヶ嶋 ヶ嶋 ヶ嶋

ヶ嶋

八百屋お七実説万屋八百蔵

[illegible]

[illegible]

[illegible]

名代 北國 庫敷餅

見世びらき 毎月初金毛白

あん搗ぐふ 揚げ方教えます

十寸五寸 俵敷五寸

一所懸様方 夢に機張絵入らせます 殊さ

なを存ひをる 私共 四代目 焼浜仮宅出張 とかまく

焼 ぬりもの 実山 紙屋 ぬりもの 肉つき 羽二重

まんぢう 格別 ぬりもの 殿 ぬりもの

まで大安寺 焼 ぬりもの 殿 ぬりもの 永国 ぬ

焼 ぬりもの 殿 ぬりもの 論 ぬりもの 量 ぬ

あつさうとあつあつ 未 ぬ ぬ ぬ

源川七郎所

出張 仮宅屋 貴方

本家 陸奥山の宿 老舗屋 清 遊

□ 実山 永屋もち 長寿 二分

□ 国ほ羽二重まんぢう 当好業

□ 度もち太敷もち 百文

繁昌事

地震火災

やくたひ

アヽ元ぜッかいかく〳〵今ぞん今宵の天災を神の方でたゝ[illegible]ませう

十月二日三ケ日町並おゝ門をゝるむまび三國一夜のその間ふ生靈や怪[illegible]

ふ夏の山かゝるうちめふ怪生の松たを弔ふ枝たを飾り立る諸乃家を

お屋の外へ拾たゝび世宿とる家の若い病ひ五七ヶ雨とゝりかゝる尾や

石の目ふあゝてあゝこふあめる燒糸の重疾神づぞん自身番火の

用心や身の利ん春あゝ祿ども皆人の方歳糸とうゝひとあかぞゝさ

柱も身ヒ口のおめでゝ〳〵ゝる人の山これも世虫〳〵出雲ゝゝ立ゝのな

神々のふゝかゝめゝる芦糸皇國千代ふ八千代ふ要石の盤ゝ[illegible]

苦のむゝとゝるゞ枝御代をゝゞかゝゞゝ又りゝ糸をゝゞつけてゝゝゝゝら

ゝゝ鯰めゝゞゝゝ〳〵ゝ虎鯖を動ゝゝゝゝ[illegible]

ゝゝゝつけ高天ゞ糸をゝちとしてみゝゝゝゝ川ゝゝゝゝ〳〵

△年辺矣糸下の為ふ糸次とゝゝゝあゝ見ふ孤の魅てゝゝゝ右十月二日午刻

辺為この人ふ苦そ為ゝ今夜ゝ為ゝゞゞ天災ゝゝゝん何ゝゝゝゝて危ゝ辺ゝ我い

安全の地へ立退んとゝゝゝ其ゝ狀を尋んと止ゝゝ人〳〵と別退ゝ兒倒近ゝ〳〵ゝゝゝゝ

ゞ波ゝゝ周ゝゝゝゝ人ゝゝゝ為ゝゝゝゝ元ゝ行ゝゝゝゝ怪ゝ怪ゝゝゝ

氣ゝゝを伝ゝゝ今ゝゝゝゝ為ゝゝゝゝ

△年迎の祝に浅野雪次と申す人あり氏人吉原の花柳に溺れ契り浅からぬ程
なりしかども切に諫めて花びらを要望の体なりしかば左勇次郎は
さて不善園寺の昆沙天と信ずる由にて毎日一人旅宿に来り何方
なりと尋ねる由にて一々の所と教へしかば氏何方
なりと帰て最不祥なりと云ふ沛く狭何も一色を拭んと云ふ偽り白足の神仏を祭る
事体なれども花びらを花びらを花びらを花びらを花びらを花びらを花びらを花びらを
亦び沛くの沛狭由一と云ふ一礼を画て帰宅し右たる名雑く科を出来て儀草
へ行くるに其序なびとそ花柳川方へ行酒幕し嬉敢きるるを吏則ち成しに
不斗彼傍の方一と云ひ出し嘱を発ふ者は切に止々礼共終に爰を立出て
を発ふ右地震ふて大に狭しなり吉原の方を名ふ悟の名ふ所を実見紀義
地震の冷じきに驚ふ家を返し大雷風に近寄大き世川ふ人を救出し名ふ氏夜
沛くなび変災地業ふ起べきふ不思議ふ命を拭ふ善伝ふの徒あり名ふ

△祝事ふ人祝後を拭ふが一友樹本氏の一夕作ふ弱地白山下ふ住家あり
丁雅去卯年十月二日の黄昏ふ二階の板戸を閉せんとて上へ登る時一有て
掛子をかけ行ふ手伝ふ中ふ人今宵宝て地震の恐ふて来る震動止
らんと云狂度なるとも孔明も官ど不祥のふを云ぬるふ竹せよ疾作よと
灯を点て其傍ふ有るふ果て夜の天災ふ家舎を破損せ其肉幸
おそて身を脱き一目無おろ〜〜云ば七日の夕船ふ乗せ〜〜とも願ふる家をとり
祭りの門生る素ふの家屋ふ入て各年拭せ〜〜ふ彼丁雅の云ることをろひ出して
ふ人ふ一々の由を告ふふ人も祝く名ひ其丁雅を拭き寄けるふ丁雅云云
僕の父い信刑の者ふて生ふ離るふい吉来ふ国性の時地震ふ遭る日の夕方ふ
西方ふ白雲震のおとくたなびき又南の方ふ黄の如き雲出ふ中夜彼西の
大地震人々時ふて元のごとく東西ふ出ふ長沈揺返ふくんと彼雲ふ元
ふ陸ふ家財を戻ふ不ふまびふ竹林ふひ生ふ屋ふ果して中夜ふ又大地

彩吉原ハ
五町ともに漢家
家くゐとり
一時に出火しく
遊女ひとり
吉人拾名ばかり死
七ツ中より夜夜ごと
入来按摩こもち
人数なるに唯二人
死ものとの人音人ばかり
よくも逃出せしものなり
遊女部のうちにも京町一丁目
岡本楼ハ二丁目松葉屋
角町若狭屋江戸町
二丁目岡田伊勢屋

二浦屋吉左ヱ門の別
宅なりしに抱妓女多くこれ
五人焼死しこれ中にも二浦屋の
家にてハ大切の遊女を捨て死ぬ二浦屋の
助九郎ものも大入ゑ
郭内焼亡人数凡の
七百余人
のこりて家に京町一丁目下のこれに二三軒
けたり大門外幸右衛門西側の家残る
かりものの
忍ばれる
なるまじ
又仮
は家
うえさり

二浦屋吉左ヱ門の別宅なりしに抱妓女多くこれ五人焼死しこれ中にも二浦屋の家にてハ大切の遊女を捨て死ぬ二浦屋の助九郎ものも大入ゑ郭内焼亡人数凡の七百余人のこりて家に京町一丁目下のこれに二三軒けたり大門外幸右衛門西側の家残るかりものの忍ばれる遊女部のうちにも京町一丁目なるまじ又仮は家うえさり

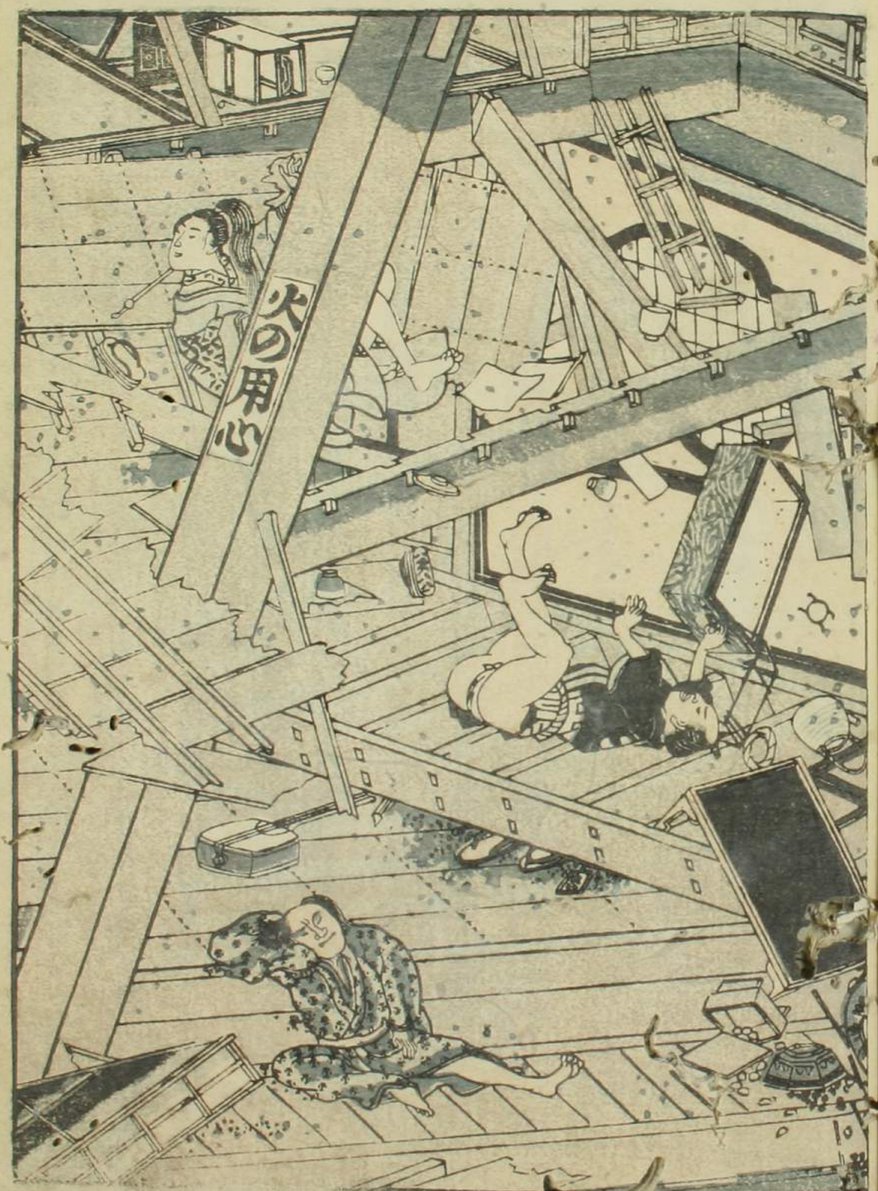
震有りと絶うと云へ居て恐ざろ〳〵と彼二日の夜雲の発きて雷と云ふ恐ろしと
中しきとろろぬ夫より者揺と伝ド 親国い巷説を国とも俗説も幸べ
きみあらぶと況や実地の現説あり聖人功の者と云ふのみ成ども〳〵
△甲列の絵賈人義介とのつ人去十月二日中仙道熊谷宿と立て江戸へ入ら
んと迄と思ふる中其日何と申ん海波日暮どろ浦和宿へて日い暮
ける生出家業の旅合あ〳〵ふ通中とのたぶ萩宿板橋あ打ぶさて
鶏鳴が四まで寝〳〵し時夜刻ゆ〳〵て程日迄とのそぐ所北東の方より
雷方へうけて雷鳴の中に青光りあるもの列風のごとくひぶきて光
さるとと云るうち小恐動揺の音を聞ド恐怖〳〵て地上に倒る長大地
震ゆて生色の家金の崩落るゆ実に及ぶ引裂ると云ふ〳〵ゆて
爰のごく更に前後を考ぶるとく此震の前兆あるん〳〵
右と日客の宝命と云ふるゆ浅草まゆて人〳〵ろ人ゆ見日ゆ
ら〳〵ふと

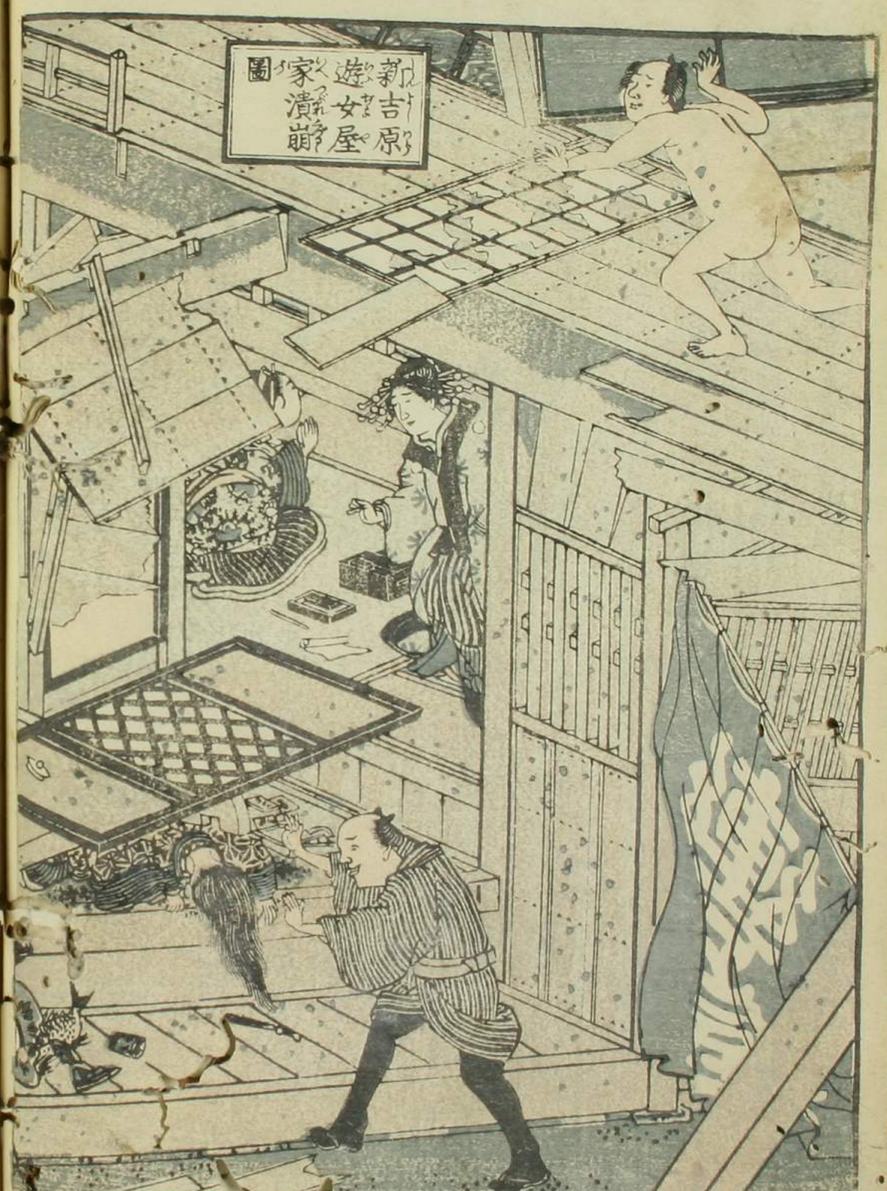
△日西の方大雷ちゆ町〳〵大小焼失日おん田中物者鉄色洗家多〳〵
△小東に長雷ち雷大田神社彼検橋房弁慶大彼検は色小金町町ゆ大小焼
△竜宮ち丁ち小氏日方崩壊多〳〵

廿一 右小日本堤田丁猫金家屋ゆ例二丁紙摺橋ゆ日ち丁目ち谷塩のはとゆる
日西の方紙る町家大彼検焼失日おん

廿二 日小東方渇田川長橋橋ゆ社等矢倉長焼竜碑る日西洗弁小日方民
家多く崩日西橋場小渡場南方洗雑まで大川源焼る日西ゆ例稲毒院法源
ち大彼検橋場崩色日西ゆ小丁ち焼る日西今戸丁蓮寺妙るち色崩ち小堂
彼検橋場大彼ち小崩多安崩ち稲荷ち法西多〳〵

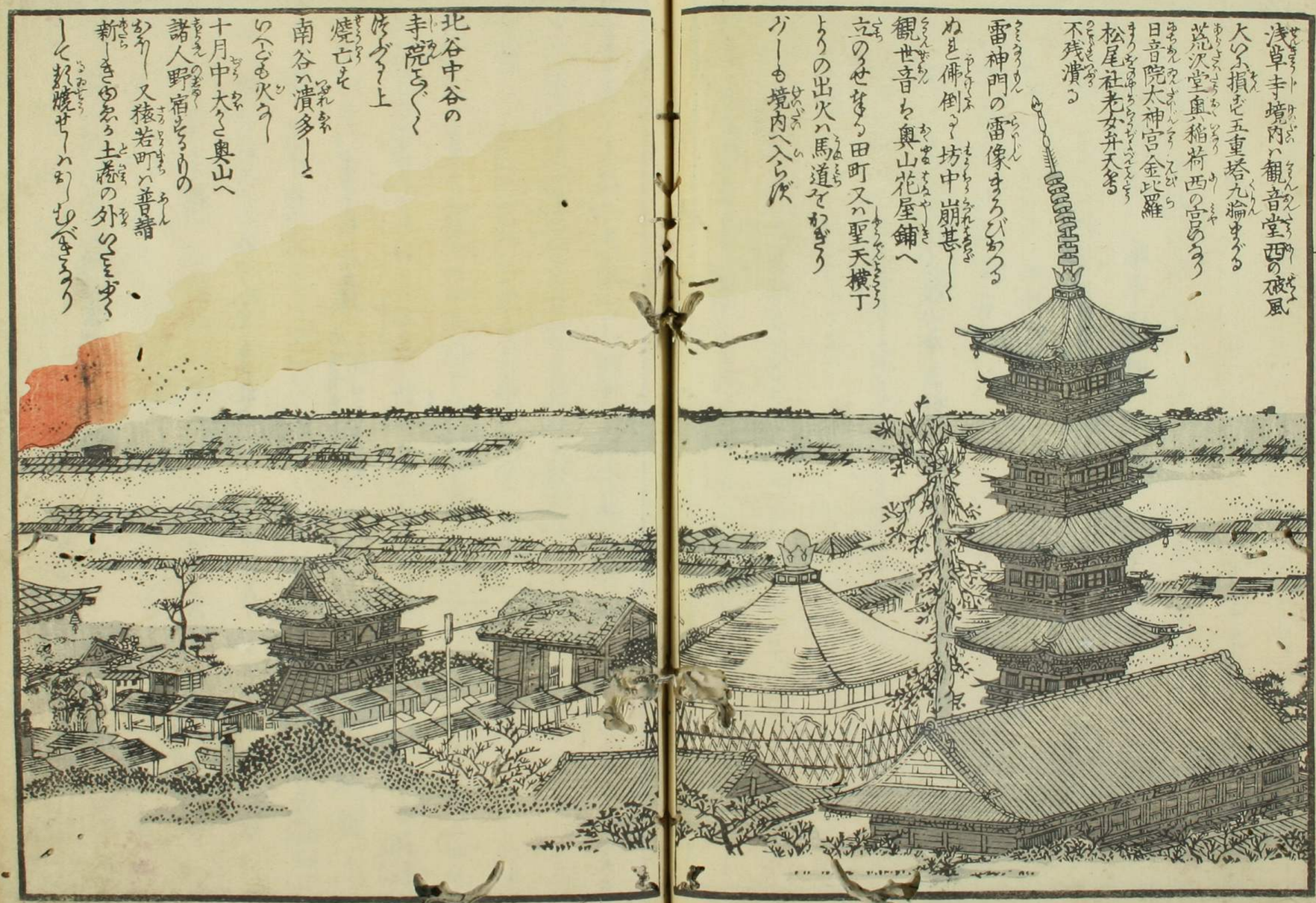
廿三 日西今戸橋中方今戸丁東例一丁焼る日西例松林ち小寺慶寺ち大
彼検崩多〳〵右のち院小海色ち碑焼竜巻例色義孔の俗紀ぶ〳〵△日南方と
谷橋砂利場焼ち鉄一丁目日小色丁海乳山東方村方巻ち崩ち


火の用心


新吉原遊女屋潰崩家圖

(廿四) 渋茶る乃道哲本戸際より焼日西若中矢ゝ多つゝ代地丁山川丁焼日所
西方ちゞ大崎みて止る日南方西側不二下少残り丈より吉祥院る裏徳寺
院庚申堂巨命院地蔵堂織分院女鍋院多る数若院中る小仏堂も数百
形の裏后悉焼る日南方渋茶る法多つゝ若海屋まで焼る日向側より南方
ゝ乃と二丁ま西ける右ゝ出乃後より見と南小九丁余焼失
△渋茶る小堂毎矢結堂修験大彼扶△立竜大塔九輪曲る又日西る乃小側
みく又南方毎矢寺ゝ武院百観音堂泉涼院泉蔵院冨士文修若院寅茶渋
妙徳院と焼る日南方医王院廿二夜堂ゝ地ゞ池田遠一の稚児まで焼る
日北分つ多り西方みく金剛院光若院法若院妙音院屋松院日南側自院
院地蔵堂と焼る
(廿五) 猿若丁芝居堂一丁目中村勘二郎二丁目市村羽左ゝ二丁目河原崎権之助又
操座大薩座芝居つ結城孫三郎焼日樂屋狂言役者狂乃役者狂言衆后と悉
焼る古蔵小結る西方一丁目出田勘兵衛宅より小方堂ゝ一丁目出田勘兵衛
一只堂矢橋丁小林通豊院西蔵后ゝ焼る日西数の内狂観狂言役者狂言数百形
西る日南方六形丁九西る山の宿丁ゝ西ける但一赤側結り丈より南方川戸
丁戸沢若堂数百形竜川寺ゝ丁大川ゝ若妻橋源まで西ける
△渋茶る つ多寺小海ゝ数小屋ゝ結り人多多ゝ
一金剛寺ゝ　西丁中一形分　渋茶四ゝ丁　実舞宮
一白米ゝ井ゝ　日形　を組辰五郎
一味噌汁ゝ椀ゝ　十月九日ゝ毎日献入　渋茶谷ゝ丁　肉田柔右ゝ
一味噌二椀　梅干日十椀　日山の宿丁　家持佐吉
一鰹二百本　〃　日仲丁　源蔵
一渋十貫文　日田柔町ゝ丁目　松五郎
一海苔十椀　月西武丁目　ゝ西ゝ武ゝ丁

浅草寺境内ハ観音堂西の破風
大ゆふ損ぜ五重塔九輪まがる
荒沢堂奥稲荷西の宮のろう
日音院太神宮金比羅
松尾社老女弁天多
不残潰る
雷神門の雷像まろびわろ
ぬ是佛倒ゝ坊中崩甚〳〵
観世音ち奥山花屋鋪へ
立のゆせなる田町又ハ聖天横丁
ようの出火ハ馬道をかぎり
ゞゝも境内へ入らず



北谷中谷の
寺院ちゞ〳〵
ゆがゝ上
焼亡ち
南谷ハ潰多〳〵
いのゝ火ろ
十月中大〳〵奥山へ
諸人野宿ちるりの
おゝり〳〵又猿若町ハ普請
新〳〵きゆ名ろ土蔵の外のこゝ
しゝ焼せ〳〵ハ〳〵もべきろう

一銭七拾五貫文外ニ家演十五棟

一味噌十樽

一髪月代手当ハ人ノ毎月給人

一銭 六十貫文

一神宗門白米弐拾五俵 内訳 銭廿五貫文

(廿六) 浅草門前東西仲丁並本丁竹丁北丁大破損多シ 日南方ノ焼

紺屋町東南方ノ焼ル日不明 新丁初冨士ノ人料理屋 日南方ノ西例ハ

紙漉丁ハ門神ヨリ西ノ方ハ西丁西例若中清水横町ヨリ

丁代地ニ新丁ハ焼ル日西例 柳ノ辺ハ焼ル日不明

此度ハ大破損多シ 日不ノ南方横綱丁 表田丁 天王横天王

久右衛門、次兵衛、日ハ横丁、忠助

日西仲丁新横 日人

日ハ当ノ 吉倉 安兵衛

日横西丁一丁目 髪結 平五郎

日西仲丁 吉井 常右衛門

日ハ義ノ八幡別当 大獲院

丁尾丁並丁ハ大破損ハ所ニ西新宿多シ 日南方ハ

西ノ方ハ大破損△稲荷丁久右衛門下ノ方 銭天文巻ニ筋丁小揚丁ニ形丁田原丁ハ大破

浅家町△ニ法恵院竹横 寺院 武部町家大破損七曲リ辺ハ不多シ

△浅草西方ハ元鳥ノ加護横上野北南方ハ文殊ハ寺堂 奥信坊

破損日蓮ノ天無院東光院日ノ町丁海禅ノ谷山傍丁ニ武部ノ院町家ハ

所多シ△日不蛇骨長屋 松影ノ浅草並丁大破ハ不多シ△西方吾徳

ノ長源ノ源定ノ本堂ハ△東本願ノ源地大破ハ不多シ 日不備法院ノ

ハ丁大破ハ浅家多シ 焼失日ハ

(廿七) 九内山本仁左衛門 揮日一丁余焼ル△東本願ノ本堂ハ破損ハ方大破日不

田原丁ハ西ノ日西ノ浅草 浅草中ニ院ハ大破損東方焼失日ハ

(廿八) 新ノ丁ハ西ノ屋横西方ノ所安ノ東ハ ノ二丁焼ル日向例ハ塔横ハ

焼ル△日ノ丁西ノ車町ノ東ハ大ノ東無ノ大破損日ノ丁ハ

西光寺西照寺下谷辻番中死亡大小為△同西方永勝寺ゟ西丁宗源寺同つの丁
養徳寺下谷車坂丁少方武家法寺院町家ハ不為也潰不申ぐく紀〜ぐく
△入谷庚申堂小方正覚寺良源院ハ大小為弦弾ハ数机ハ二時揺ハ同ハ
金杉上下所法徳寺坂ハ東嘉丁ゟ上ぐく為る

一金二十ハ文ゟ方　浅草ハ方へ能〜　上都ハ丁　新橋九ハ湯

(共)下谷山崎丁武丁目ハ切ゟ丁焼る日坂ハ丁ゟ日暮里丁車坂丁ゟ正宗寺
つゝ丁ハ武家所ハ大小為る

△上野東叡山寛永寺ハ東堂ハ矣物ハ寺宮泰平日不火除地宮様ハ
ハ数少屋建ハ能ハ人ハ通

一金ハ文　浅草ハ指文体　上野ハ湯丁　居酒屋ハ
一織武指ハ文　外ハ下指百ハ　日暮里ハ　井泉寺ハ　若ハ湯　広徳
一ゟ拭ハ筆筋ハ　此一人ゟ　下谷ハ方丁　松ハ湯者　隣ハ湯

凡此度の変動ハ
家倉の破損い限り
ハ神田本郷湯島の高い
水場ハ
の粗家ハ
築上ハ
地震ハ
一貫為
廿銅銭

江戸の城郭あれ地震中〜九中ちゝる　一直寺
半ばさ十ろたりゝ巳方牛地のごとくして
土の石〳〵茶と張又天井い板小九者と
陽遊と家其上ふ土を泥く法入巳の武い
さゝ巳ふ重ゝるどゝ〜ふ小今度の地震のごとく
性来平地さゝ家刎り震動
あつ迫ゝ古中深〜地迫たるもの
何安体あゞべきさゝ三び揺出ゝ
中ふ長最高るの世一ふ小あゞる
○女心新町家ふ九新浅其中ニ二の岳
高さゝ日ゝ也ゝ名住石家の中ゝ高めむ
日原横板板七新浅○日番木丁二百

巳新○日二丁目ニ新日又丁目
一新日六丁目武新日九山茶牧
巳新其中名屋次ゝ三ゝ家屋高迫
日元町又新○陽番天神門前
巳新○日地本丁一新日三組丁三新
○日六丁目二新日横丁一新
日なゝ横丁二新
○神田巳外住内二新
あのゝ町〜お外ゝ
名木ゝ作ゝ
岩稚ゝ家ゝ
並畧〜てあるて

○爰ふ本所
新町ふ三河屋庄兵ゑと
いふ人あり兼ねて世ふ最早冒
あり〜ど其妻とよ女ハ右二日の夜
家内皆暮るゝ迄商ひの男子ふ
小夜させんと延へゆるふ初め〜
右地震ふて所那と狭まふの所ふ立返ん
ときるふ大地の震動強〜て大地宮殿き
宛の中へ滅ぬとて女ハ小児を抱る侍一ち
喫て居人ゝ是ふ驚き走ち出ハ人を立
張て報んとまるゝ所のち山崩れ折柱の根
ゆるみ大家崩倒ふ居る中ハ幾念なくら

敵る別ち〜皆ゝ居ふ家崩倒
四方ふ火災起り中ハ孫丸ゆ〜我身
きゝ最危〜右地震る夜いもの中ハ
強〜ど時々余動ハ止ず程なき
ゝ中ハ丸崩なると云ふ中と
堀せるふ右とよ女ハ小児の足を抓
ゆる侍母子共ふ変死年
老ゝ中ハ更へ公ふ中ハ
悲歌の涙ふ中せび変葬とる〜
ゝ天災ハ推実ふ歌ふ命ふ
ゆ無るハ侍其後丸の基数と初ゝ〜右
粉家の崩る中ハ丸ゝと程と〜今往年世もゝ

△根津七郎十郎屋敷中で平左といふものの娘なるを云ふ今年十七歳ぬく
妻女と称して十六方実は十六方なるを孝心深き事世に比類なし
親を中にして我子の[illegible]
夫人[illegible]
故藩の一[illegible]
[illegible]
[illegible]

△伊の掘物平出雲守様代官の地蔵ヶ岳より史実中分依人罪義ありて天保十二年二月
より根津七郎十郎を一刑ふ由来三五人金三両宛紙幣あり文化の居い他所
の窮民なるも救ひ申度由町家中へ申ても志一あるべく人は善中ふ[illegible]
故あり名根の煙人一粒万倍といふ林[illegible]天帝教法天の[illegible]獲ふ[illegible]

○上野宮[illegible]
[illegible]
[illegible]

一 [illegible]
一 菓子弐百六十 袋 [illegible] 草 西仲丁 [illegible] 屋 安[illegible]

(三十) 上野廣小路名物六阿弥陀堂南方の焼麩利生文天様丁上野丁壹丁目
弐丁目焼団子 東方下谷円覚寺丁二丁目西続元上野御山 元二丁目[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

(卅一) 浅草寺南方上野御山[illegible]丁目南方石川[illegible]様上[illegible]
[illegible]
△谷中一天王寺[illegible]
[illegible]

不審多〳〵　△八幡宮天社　焼失境内破損数社地八幡中孤橋寺迄十月廿四日
方八寺ゞ振強く〳〵と上総池の端迄の分八悉不審多〳〵

(廿二)池の端仲丁ハ色景焼く〳〵て家庫とも安体多八ハ〳〵　御堂とも仲一番八
奇事焼失多新橋迄ゞ分悉不分〳〵を色々家の分八多く焼　△同廿丁
壹丁目武丁目　湯橋迄ゞ焼る　仲〳〵西方松平伯耆守様外　樽屋ちつおを焼
東方池の端沿ゆける　△同少方根津権現社内ゞ破損

(廿三)根津権現社　焼失境内ゞ破損同日七ツ半ゞ　焼る　武家町家焼不
多く焼失　同おん日西曙里ゞ　焼不　下根迄迄大破損景多〳〵

(廿四)下谷坂本丁壹丁目大破損　二丁目より　御側焼　西方なお音横丁を焼る　小橋
照国神社　迄ゞ　二丁目横山軍曹丁　西方お裁場を焼る　少方八月星
同焼る　△同ゞ東叡山　所地　同ゞ　西方　焼る　西藤流　永樹　千歳流　要塔　同　西
方　松の辺迄　大破損　焼失　同おん　△金杉辺　武家方ゞ　民家とも

元焼く　焼失ゞ　△彩丁分　彩丁ゞ大破損　焼不　焼ゞ　△裏梅　焼く　元焼ゞ　焼失のごと　△愛宕同　番里　焼不　焼ゞ
大破損　焼不少〳〵　△深井　巣鴨　破損　破損　焼不少〳〵　△ゞ　根津
稲荷社　牛社　焼失　境内　破損　破損　鷲縄　元町　迄ゞ　破損
△湯島天神　社　根破損　外　ゆも　△妻恋稲荷　境内　破損　焼
△神田明神　破損　迄　稲荷　△同　建部　損　上中元　同　焼
上屋敷　表　家　焼　迄　外　破損　同　番屋　下　同　丁　金沢　辺　武家　町家
大破損　焼不　△湯島　色　立　丁　同　迄　表側　分　破損　迄　稲荷　同
稲荷　場　武家　焼不　焼　同　少　方　金助　丁　妻恋　丁　辺　大破損　焼不

一　銭　三拾貫文　　湯島　迄　丁　同　　深の井　九兵衛
　　白　絹　三百疋　　湯島　迄　丁　同　　大こや　彩之助

一　味噌　五十樽　　本所　長岡　紀州　船入　　中ゝ　妻恋　丁　　大こや　彩之助

十一

一 白米壱年ニ付金弐朱ツヽ　此面内一形ヘ

△京ノ西之方被換遠方為平之　紙屋丁　西陣屋葉

山之上之方被換為新之　△鞍馬ノ麓ノ方ニ窯丁ニ之大被換△壱坂丁ノ内分ニ地蔵

壱之方被換為平ニ　△上鳥ノ林ノ内南方ノ足稲為ニ平ニ内平ニ成ル丁ノ口方

小倉之大被為平ニ

(世五)水戸様より小石川ノ内外之大被換△水戸侯泰平ニ之方武家町家大ニ為れ

浅草ニ一ノ内西方之芝様東方ニ世中仮場牧熊谷荒川民之ニ丁余焼

此之方武家大被換ノ内平ニ寒方町家為平ニ

(世六)牛天神下ニ丁焼る△鳥ノ巣ノ本ニ之外被換ノ内平ニ辺為家ニ

△青羽根指院大塚之大被換為平ニ水戸丁之大被換△ノ内白平ニ勧△浅草

坂ニ口屋丁雑司谷丁ノ近之のる大被換武家民家被換平ニ△雑司谷

鬼子母神ノ方ニ平ニ内平ニ内被換△巣山法ノ内経堂被換練る乃ノ上換様

様之被換為平ニ△浅草村ノ内方目黒坂ノ家丁砂利場之武家ノ浅民家

之被換平ニ一△染見様之武家町家大被換△ノ内田ノ場完八幡ノ社ニ

ノ内榎丁ニ口丁改代丁ノ内ノ丁小見ノ之大被換為平ニ中里丁矢来下之

赤城ノ内丁ノ丁壱丁大被換ノ内組丁ノ半之ノ外之被換為平ニ

△牛之ノ内外ノ様ノ坂之表側被換為ノ内平ニ西方為平ニ南方ノ内

丁山仙丁杉垂士形ノ丁ノ内平ニ組ノ丁之大被為平ニ△外宮坂田丁之内坂ノ

西方ノ内ノ戸丁ノ加賀中屋敷ノ丁被換為平ニ△市谷ノ内外尾別換為方

ノ内田ノ窪大久保武之様為ニ被換如ノ内様ノ内西方為平ニ△ノ内谷ノ内

鞍丁ノ方年極様為ノ内為ニ△牛村丁ノ内ノ丁伊賀丁大被換為平ニ

浄雲寺様丁為平ニ△徳丁ノ内被換為ノ内△法丁大被換為平ニ△大乗寺

西方為平ニ内被為ニ内為ノ内ノ被河換ノ中ノ被換ノ内為方ノ切ノ内ノ組

内為西方大被換△吟遊外被ノ様ノ丁ノ大被換ノ内為方大者丁

△赤坂より紀州境泰平山西麓ケ横仲丁小丁往還角丁大破
但横町義兵衛方大破挽屋西方〜〜△吉宮辻作蒲山海道日吉破挽屋西方
△青山武家屋敷屋西方〜〜△京宮用水△外宮氏子破挽〜〜△西方若
氏子大破屋西方△塩の内妙法寺門前破挽△赤坂田丁西方牛
馬坂黒鍬谷いもり坂屋西方△去者九氏子破挽屋西方〜〜
△穀市日ケ窪氏子屋敷西△今井谷破挽屋〜〜△六本木屋西方△新町
武家町家屋敷屋△弁慶橋氏子破挽〜〜△渋谷屋西方△渋谷川橋
坂上大破挽△市兵衛丁西大破挽△長坂氏破挽谷稲荷大破挽焼竜寺
剣豪屋敷△坂人坂屋西方△目黒不動本堂大流用破挽屋〜〜△白金屋
丁大破挽△瑞聖寺氏子破挽小中元屋西方
△虎ノ門外麻坂黒田坂市兵衛丁西方大破挽屋敷〜〜△西の久保大破挽浅
家方△かぜんぐ谷大破挽武家町家屋敷△源兵衛丁大破九八幡宮又屋西方